



2022年4月13日

各位

会社名 株式会社マックハウス
 代表者名 代表取締役社長 坂下 和志
 (コード番号7603 東証スタンダード)
 問合せ先 執行役員 管理部長 佐滝 実
 (TEL. 03-3316-1911)

特別損失(減損損失)、営業外収益の計上及び
 2022年2月期通期業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2022年2月期通期決算におきまして、下記のとおり特別損失(減損損失)、営業外収益を計上いたしましたので、お知らせいたします。また、2021年9月15日に公表いたしました2022年2月期の業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、あわせてお知らせいたします。

記

1. 特別損失(減損損失)の計上について

当第4四半期において、収益性が悪化していると認識した店舗、共用資産に関して、減損損失として154百万円を計上いたしました。以上により、2022年2月期として283百万円の特別損失を計上いたしました。

2. 営業外収益の計上

2022年2月期において、転貸損失引当金戻入益額として66百万円を計上いたしました。以上により、2022年2月期の営業外収益として454百万円を計上いたしました。

3. 通期業績予想と実績値の差異について

(1) 2022年2月期通期業績予想と実績値の差異(2021年3月1日～2022年2月28日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	18,400	△800	△730	△1,100	△71円21銭
今回実績(B)	18,155	△1,078	△887	△1,309	△84円85銭
増減額(B-A)	△245	△278	△157	△209	—
増減率(%)	△1.3	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2021年2月期通期)	19,717	△1,127	△1,100	△1,756	△114円00銭

(金額の単位:百万円)

(2) 修正の理由

発表予想を達成させるべく、立地特性を考慮した品揃えの変更、冬の機能素材商品の拡充など、業績の向上に取り組んでまいりましたが、第3四半期において、新型コロナウイルス変異株と気温が高く推移し、客数減少と秋冬商品の立ち上がりが遅れたことにより売上が低下しました。また第4四半期は、売上高は概ね予測とおりに推移しましたが、売価変更を抑制したものの、原材料費などの高騰による原価上昇で、粗利率が計画を下回りました。

これらの結果、第4四半期累計期間における販売実績は、既存店売上前年比101.9%、既存店客数前年比94.7%、既存店客単価前年比107.6%となりました。

利益面につきましては、販売費及び一般管理費のコントロールを行い、営業利益の確保に努めましたが、売上高及び粗利率の低下により、業績予想を下回る結果となりました。

以上の結果、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益は前回発表予想を下回る結果となりました。

以上